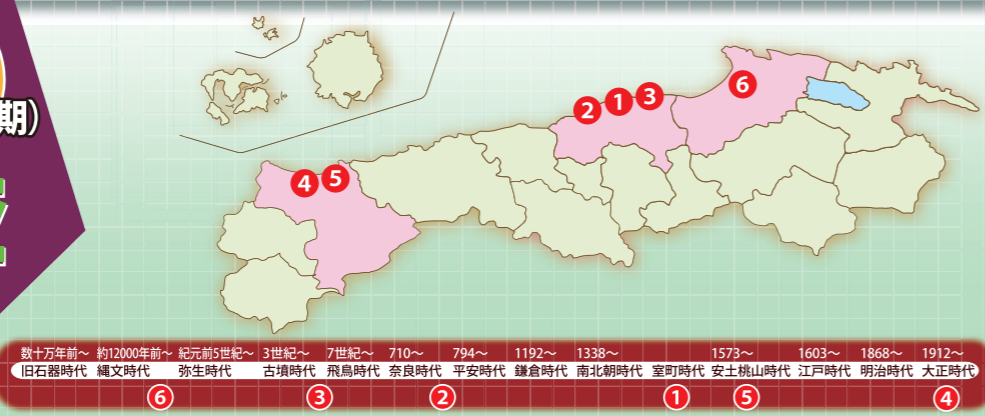


島根県の最新発掘情報 平成28年度(上期) 発掘調査ガイド



●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようにお願いします。
 ■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

古代の砂丘上の集落 ②垂水遺跡 (大田市静間町)

一般国道9号(静間摩道路)建設に伴い、5月から8月にかけて発掘調査を行いました。遺跡は標高約60mのゆるやかな谷に位置します。遺跡はきめの細かな砂の砂丘の上にあり、遺構は見つかりませんでした。砂の層の中から奈良時代から平安時代の土師器や須恵器が見つかりました。

遺物に含まれていた黒色の砂層は、「クロスナ」層といい、砂丘活動が止まっている間に植物が茂っていた痕を示す地層です。同じような「クロスナ」層は浜田市や江津市、鳥取市の鳥取砂丘でも見つっています。

今回の調査では、奈良時代や平安時代の人々が砂丘の上で生活していた様子などがわかりました。



クロスナ層(黒色の層)

須恵器と土師器

調査状況

静間川河口の集落遺跡 ③平ノ前遺跡 (大田市静間町)

一般国道9号(大田静間道路)建設に伴い5月から発掘調査を行っています。静間城跡の北東に隣接する標高約4mの場所にあります。これまでの調査で、多くの柱穴や近世(江戸時代)以降の水田跡が見つっています。また古墳時代から中世(鎌倉時代から安土桃山時代)にかけての遺物が多量に出土しています。古代(奈良から平安時代)の遺物では、生活用具である煮炊き用の土器やそれを支えるために使用された土製支脚などがあります(写真)。中世の遺物では、14世紀ごろの中国製の青磁・青花や、備前焼の播鉢などが出土しており、隣にある静間城に関連する施設があった可能性があります。調査区は河口に近い静間川のすぐ近くにあり、今後の調査で古代の静間川周辺の様子がわかる資料が見つかることが期待されます。



調査風景

古代の土器

近代の瓦窯跡と作業空間 ④榎坂窯跡 (益田市土田町)

一般国道9号(三隅益田道路)の建設に伴い発掘調査を行っています。榎坂窯跡は益田市と浜田市の市境付近にあります。山の斜面に築かれた近代の登り窯の一部が見つかりました。窯では瓦をつくっており、周囲からは瓦や、瓦を焼成するための台などの窯道具が大量に出土しました。窯に隣接する平坦面では瓦の成形や乾燥などの作業を行う作業場であったとみられます。その他、尾根の頂上部にも関連遺構がある可能性があり、今後の調査で明らかにしていきます。



瓦の不良品や窯道具を捨てた「物原」

建物の礎石列を確認

窯の底部のレンガ

近世から続く街道 ⑤近世山陰道馬橋地区 (益田市土田町)

一般国道9号(三隅益田道路)建設に伴い5月から発掘調査を行っています。榎坂窯跡がある丘陵の斜面に造られた街道の跡で、遺跡の脇を流れる土田川にかかる「馬橋」から続く近世山陰道と考えられます。街道は昭和になってから大規模な改修が行われたため、明確な近世山陰道の痕跡は発見されませんでした。

しかし、街道跡に沿った斜面から石垣が見つかり、この石垣が江戸時代の街道に伴う施設と考えられます。また、江戸時代の磁器や古銭なども出土しており、当時の人々の往来の様子を知ることができました。



街道に沿う石垣

改修された街道

神西湖ほとりの縄文ムラ

⑥京田遺跡 (出雲市湖陵町)

京田遺跡は、一般国道9号(出雲湖陵道路)改築に伴い、5月から6月にかけて発掘調査を行いました。神西湖に注ぎ込む常楽寺川の川岸にあり、現地表から1.5mほどの深さから遺構や縄文土器などが発見されました。明確な建物跡は見つかりませんが、柱穴の可能性のある穴や径90cmほどの穴のまわりに石を張り付けた土坑(土を掘り込んだ穴)が発見され、周辺には縄文時代のムラがあったことがわかりました。

また、縄文時代後期(約4,000年前)の土器や安山岩や玉髄、黒曜石などを使用して作られた石鏃やスクレイパー(ナイフのようなもの)が出土しました。

周辺には御領田遺跡や奥ノ谷遺跡などの縄文時代の遺跡があり、常楽寺川周辺の縄文時代のムラの様子が徐々にわかってきました。



土坑からは土器が出土



調査状況